3. 着工式典

式典の数日前までは、低気圧の発達によりフェリーの欠航や遅延が生じるような悪天候でしたが、当日は好天に恵まれ、堀井学衆議院議員、山岡達丸衆議院議員、鈴木宗男参議院議員をはじめ、約 70 人の関係者にご参列を頂いた中での開催となりました。

室蘭開発建設部長の式辞の後、国土交通省港湾局長、岩倉博文苫小牧市長からの挨拶、ご来賓の方々からの祝辞を頂き、最後にくす玉の開披で着工をお祝いしました(**写真 1**)。

式典後は、苫小牧港湾事務所長から、現地着手した海上地盤改良工事の状況について、説明を行いました。

4. 完成に向け

新たな岸壁の整備には、柔軟なフェリーダイヤの設定による道内物流の効率化や労働環境の改善や、発生が懸念されている日本海溝・千島海溝の巨大地震など大規模地震への備えとして、地域から大きな期待が寄せられていることから、一日も早い完成を目指し取り組んでいきたいと考えています。

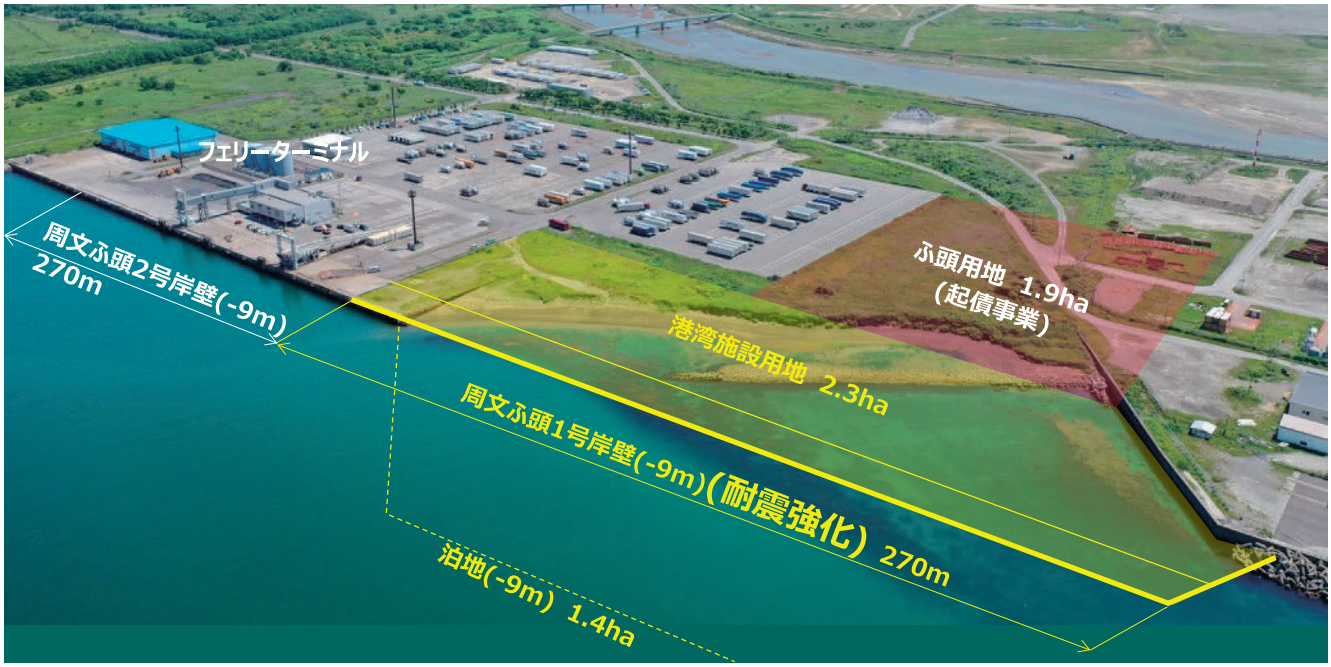

図 2　事業のイメージ

図 3　完成イメージ

写真 1　着工式典の状況

臼尻漁港臨港道路の整備を進めています

北海道開発局　函館開発建設部　函館港湾事務所

臼尻漁港の概要

臼尻漁港を含む南茅部地域は、北海道における大謀網漁業発祥の地であるとともに、我が国初のコンブ養殖事業に成功するなど、歴史と伝統の息づいた地域です。現在の漁業形態はコンブ(採藻･養殖)漁を中心に、定置網、刺し網漁業等を組み合わせた漁業形態で、コンブ、ぶり、まいわし、さば等が主要魚種となっておりますが、ここ最近はイカ釣り外来船利用が大きく変動している状況です。

また、平成 11 年にはカモメドーム、平成 13 年には人工地盤の整備等、就労環境改善や衛生管理の向上に対しても比較的早い時期から取り組まれてきました。

写真 1　狭隘な漁港背後の市街地

臼尻漁港臨港道路整備事業

臼尻漁港で水揚げされた水産物は、大型トラックにより漁港背後の国道 278 号、あるいは市道を通り背後高台を走る尾札部道路（バイパス）を経由して運送されますが、国道は海岸線と崖地に挟まれた密集する市街地内の狭隘な道路である一方、尾札部道路に至る部分も高低差が約 50m 以上ある急勾配・急カーブの市道を利用せざるをえない状況です**（写真 1、2）**。

写真 2　急勾配・急カーブの現道

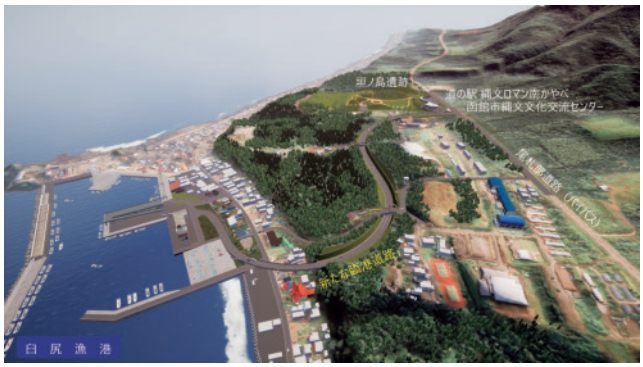

写真 3　完成イメージ図

写真 4　橋脚の施工状況写真

写真 5　BOX カルバートの施工状況

そこで、臼尻漁港と尾札部道路とを結ぶ高低差を、延長約1kmとなる新設道路(片側車線3m＋歩道2.5m)により勾配及び線形を緩やかにして接続する事業を開始しました。途中交差する既存の国道及び市道3路線とは、橋長111mの橋梁及び3基のBOXカルバートを設けて上下に分離します(**写真3**)。

事業着手後は用地関係手続き、埋蔵文化財調査を行いながら令和3年度より現地に本格着手し、地盤改良・道路土工を進めるとともに、令和4年度工事により、橋脚全3基のうちの2基及び橋台2基のうち1基の下部工、BOXカルバート1基が完成し、次第に将来の臨港道路の姿が見えてきて現地の関心も高まっている状況です(**写真4、5**)。

令和4年12月には令和3年に引き続き現地記者レクを行い、CIMによる3Dモデルを活用して作業の効率化を図る工事内容や事業の進捗状況を公表し、来年度以降実施予定の残りの橋脚・橋台、BOXカルバート、橋梁上部工及び道路土工の事業について説明しました(**写真6**)。

また、本臨港道路が尾札部道路に接続する箇所に隣接し、「道の駅縄文ロマン南かやべ」及び縄文のこころを繙く「函館市縄文文化交流センター」が併設されております。ここでは、北海道内唯一の国宝として、3,500年前の墓から出土した「中空土偶」が展示され、背後の「垣ノ島遺跡」(2021年「北海道・北東北の縄文文化遺跡群」世界遺産登録)とともに観光客の人気となっております。

今後、本臨港道路の完成により、水産物の安全で効率的な陸上輸送、漁港利用者の利便性向上、更には津波等災害発生時の避難路として利用できるのはもちろんのこと、観光客等の交流人口拡大も期待されます。これからも工事安全第一に早期完成を目指し臨港道路整備事業を進めてまいります。

写真6　現地記者レクの状況

令和5年度からBIM／CIM適用をより推進します

北海道開発局　港湾空港部　港湾建設課

はじめに

国土交通省における生産性向上に資する様々な取り組みの一つとして、BIM／CIM(ビムシム)の活用に取り組んでおり、令和5年度からは小規模な工事を除く全ての公共工事においてBIM／CIM適用をより推進します。

※**BIM／CIM**(Building／Construction Information Modeling, Management)とは、
計画・調査・設計段階から3次元モデルを導入、その後の施工や維持管理の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間で情報共有を容易にすることにより、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図ることを目的とします。

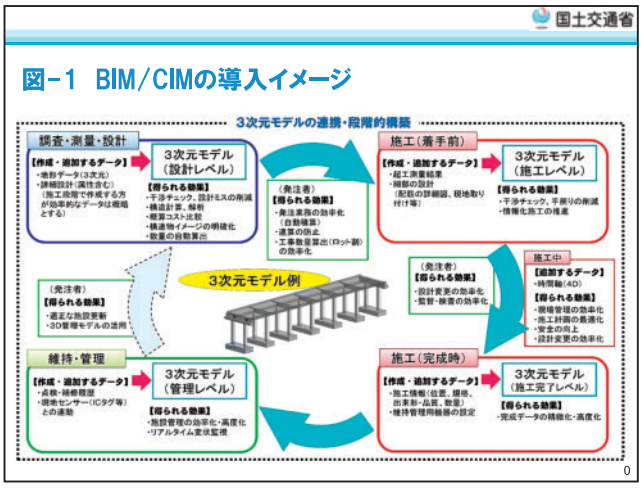

図1　BIM／CIMの導入イメージ

北海道開発局港湾部門の取り組み

令和5年度からの推進に先立ち、北海道開発局港湾